

### 執筆者紹介 (掲載順)

八田 英二	同志社大学学長	岩崎 保道	同志社大学大学院総合政策科学 研究科総合政策科学専攻博士後期課程
片山 隆男	本学副学長・経済学部教授	高田 亮爾	流通科学大学商学部教授
佐和 良作	本学経済学部教授	瀧澤 秀樹	本学経済学部教授・当研究所所長
閻 和 平	本学経済学部助教授	小田 忠	本学学術研究事務室長
塩田 眞典	本学経済学部教授		

### 編集委員 (50音順)

(○は論文審査委員)

○岩井紀子	本学総合経営学部教授	○谷岡一郎	本学総合経営学部教授・学長
○加賀田哲也	本学総合経営学部教授	常岡裕之	本学事務局長
○片山隆男	本学経済学部教授・副学長	○中野 安	本学総合経営学部教授・商業史博物館長
○菊池光造	本学経済学部教授・図書館長	○成田孝三	本学経済学部教授・ 大学院地域政策学研究科長
瀧澤秀樹	本学経済学部教授・当研究所所長		

### ◆◆編集後記◆◆

最近、大学の入学式・卒業式に対する父母の関心が年々高まってきている。八田先生によると、同志社大学では、卒業式の様子をインターネットで中継し、その動画データをWeb上でダウンロードできるサービスも行っており、約5,000名の卒業生に対して、6,000程度のアクセスがあるという。近年は本学でも入学式・卒業式は父母席が満員御礼状態であり、教育熱心な父母が増えることは大学としても喜ばしいことである。しかし、自立できない学生が増加しているのも事実で、大学でも教育懇談会と称して、中学・高校で行われる三者懇談のようなものが大々的に実施されているのが実状である。

その一方で、学生による授業評価などが多くの大学で行われ、大学教育に対する学生の影響力が大きくなっている。これは教育改革の一環で、教員の教授能力を問うこととあわせて、学生の授業改善に対する積極的な働きかけも求めている。このような改革が実を結ぶためには、学生の授業に対する主体的な自覚が必要になる。同志社大学ではGPA制度を導入し、学生の成績評価を厳密にすることによって、学生の授業評価に対する真剣味を向上させるという効果を期待している。学生にとっては、背に腹はかえられぬということになる。少子化と大学の乱立で変わりゆく社会環境において、大学自体も学生に対する認識を切り替えて行かなければ淘汰されていく。対談で示された同志社大学の試みも、そういう時代における構造的教育改革の一つのモデルである。

(池田治司)

2005年7月20日 発行

地域と社会 第8号

編集・発行

大阪商業大学比較地域研究所  
〒577-8505

東大阪市御厨栄町四丁目1-10

TEL(06)6785-6139

印刷

株式会社 RPSセンター